

水舟の里づくり事業

取り組みに至る背景・事業の目的

「水舟」は須原宿のシンボルであり、住民の手で受け継がれてきた、誇れるものであるという共通の認識がある。

須原宿景観形成住民協定運営委員会では、これまで水舟の更新を中心に活動をしてきたが、宿場らしさを高めるとともに、住民の協働意識の高揚を図るため、宿場内に手づくりの灯籠を設置することを決定した。

事業内容

平成19年度に引き続き、水舟を2艘製作・設置し、水舟の里づくりを進めた。

また、風情ある明かりで夜間の宿場を照らし出すため、宿場の各町内に2基ずつ、合計14基の灯籠を住民自ら手づくりし、設置した。



事業効果

水舟及び灯籠の製作・設置に住民延べ123人が携わり、他地区の模範となりうる地域住民の協働・共助による自主的なまちづくりが進められた。

また、水舟・灯籠の設置により、水舟を中心とした宿場整備が整い、地域住民はもとより旧中山道を徒歩で旅する人々、重要文化財「定勝寺」を訪れる観光客に「水舟の里」をアピールしている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

灯籠の設置には、個人の家のスペースをお借りしなければならないので、当初は承諾いただけると心配していたが、快く引き受けていただいた。将来的には30mに1箇所程度設置したい。

今年度、水舟を2艘設置したことにより、宿場内の水場整備が完了した。

今後は、各水場にネーミングをして、「水舟の里」としての体裁を整えたい。

また、観光客へのアピール及び経済効果を期待して、水舟をモチーフとした土産物（例えば水舟木工グッズなど）づくりを進めたい。

さらに、夏祭り、お盆、村のイベント等で限定販売できるよう、水舟をシンボライズした和菓子創作の可能性を探る研究を進めたい。

【選定のポイント】

地域のシンボルである「水舟」や宿場の風情を醸す灯籠を、住民が協力し合いながら製作することで、地域協働による自主的なまちづくりの意識が高まり、地域の観光の振興にも一定の効果を示した。これまでの成果を足がかりに、住民協働による地域振興の一層の進展が期待される。

団体名	須原宿景観形成住民協定運営委員会 (大桑村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	代表 田中昭三 電話 0264-55-2148	事業費	2,390,220円
		支援金額	1,905,000円